国立大学法人
豊橋技術科学大学

IT食農だより

発行元：豊橋技術科学大学　先端農業・バイオリサーチセンター
住所：〒441-8580　愛知県豊橋市天伯町雲雀ヶ丘1-1
TEL：0532-44-6655　　E-mail：info@recab.tut.ac.jp

2023年2月15日
No.90

東海地域の6次産業化推進人材育成　第11期生修了式が行われました！

1月20日(金)に「東海地域の6次産業化推進人材育成」第11期生の修了式が行われました。当日は、髙山先端農業・バイオリサーチセンター長から修了生12名に修了証書と「6次産業先導士」の称号が授与されました。この称号は、文部科学省の「職業実践力育成プログラム(SBP)」及び本学の履修証明プログラムに認定されております。センター長の式辞後、優秀な成績を修めた小山田政義氏が修了生を代表して答辞を述べられました。

（文責：水鳥絵理）

東海地域の6次産業化推進人材育成
第11期生

髙山　弘太郎　先端農業・バイオリサーチセンター長　式辞

修了されました皆様、本当におめでとうございます。

今年度も新型コロナウィルス感染症の状況に配慮しながら、皆様と本センターの教職員が一体となって適切にプログラムのすべての課程を遂行することができ、本日の修了式を迎えることができました。

このプログラムは週末に講義が行われますので、平日に本業がある社会人の皆様や学生の皆様には非常にハードなスケジュールだったのではないかと思います。しかしながら、皆様は、本プログラムにお申し込みになったときの高いモチベーションを維持されて、最後までしっかりと受講を頂きました。まず、このこと自体が大変すばらしいことだと思いますし、このプログラムの受講によって得られたものが、今後の皆様の活動の大きなチカラになることを確信しております。

さて、皆様は、この「東海地域の6次産業化推進人材育成プログラム」の11期生となります。このプログラムは、文部科学省の職業実践力育成プログラムに認定されており、「6次産業先導士」の称号を授与する本学の履修証明プログラムであるとともに、「食の6次産業化プロデューサー」通称食プロの段位申請が可能なプログラムとなっています。食プロは、内閣府によって始められた「国家戦略・プロフェッショナル検定」のひとつです。この検定には、食プロの他に、「介護プロフェッショナル」「カーボンマネジャー」がありますが、いずれもわが国の未来の重要課題の解決に貢献する人材であることの証となる検定です。これまでの246名の修了生のうち、96名が食プロの認定を受けています。

皆様は、キャリア段位レベル3の申請をすることが可能です。審査プロセスの一部が免除されますので、是非、積極的に食プロ認定を受けて頂ければと思います。

この大変有意義なプログラムを運営するにあたりましては、愛知県、豊橋市、田原市、豊川市、蒲郡市、新城市、さらには、株式会社サイエンスクリエイトの皆様にご協力いただいております。本日も来賓としてご臨席を賜り、誠にありがとうございます。また、本事業を推進するにあたり、豊橋信用金庫、サーラコーポレーション、大仙、トヨタネ、イノチオホールディングス、本多電子の皆様には講師の派遣や視察等へのご協力を頂いております。この場をお借りしまして、改めて感謝申し上げます。

本プログラムのクライマックスのひとつでございますビジネスプラン発表会が先月開催されましたが、私も審査員として参加させていただきました。本プログラムで身につけられた6次化の視点で新たなビジネスの提案がなされ、すぐにでも着手できそうなものもあり、大変楽しく参加させていただきました。私を含め、審査員の先生方からの質問にも真摯に受け答えをされ、まさに、6次化を推進できる人材になられたと思いました。

世界情勢の影響もうけて、農業を取り巻く環境は非常に厳しいものになっております。単に生産するだけの農業では生き残ることがかなり困難になったとも言えます。このことは、まさに、6次化を前提とした農業が当然の時代になってきたとも考えることができます。皆様は、このような時代の中心となってご活躍いただけると思いますので、「6次産

業先導士」として、食農産業をリードするビジネスを実践いただければと思います。

もちろん、孤独な戦いの部分もあると思いますが、多くの仲間もいます。先端農業・バイオリサーチセンターの人材育成プログラムの修了生６１５名で構成されるIT農業ネットワークです。このネットワークのメンバーのアクティビティや存在は、皆様がビジネスを展開する際のお手本になってくれたり、サポーターになってくれたりすると思います。メンバーの中には、新規事業を立ち上げられ、新聞やテレビで度々紹介されている方もおられます。皆様のご活躍が、このプログラムの存在意義の証明でございますし我々の励みにもなっています。今後も引き続き研鑽を積まれ、ご活躍いただけることを心より願っております。

最後に、改めてお祝いの言葉を述べさせていただき、私からの式辞とさせていただきます。

本日はおめでとうございます。

修了生答辞

本日は、多くの皆様のご臨席のもと、私たち「東海地域の６次産業化推進人材育成」事業の第11期生の為に、このように盛大な修了式を開催していただいたこと、心よりお礼申し上げます。また、髙山センター長様から、素晴らしい式辞を賜りましたことに、修了生を代表して重ねてお礼申し上げます。

振り返りますと、昨年の９月３日に、私たちはそれぞれの思いをもって開講式を迎えました。実際に農業を営んでいる方、これから農業を目指す方、学生の方など様々な方が参加され、コロナ禍の中で幸運にも対面での開校式となりました。

山村先生が講義の中で「大人チーム、学生チーム」と言われた通り、年齢層もさまざまではありましたが、一つのテーマに真剣に意見を交わすグループ演習は、世代を感じさせない仲間のような感覚を覚えた記憶が今でも印象に残っております。

このような仲間と共に、合計14回の６次産業化の講義を体系的に学び、６次産業化の全体像と必要な基本知識を学ぶことができました。講義の具体的な内容は、６次産業化推進のポイント、マーケティングと経営戦略、食品加工や品質管理、農産物輸出、就農や保険、行政機関の支援施策、そしてビジネスプランの作成と発表などで、熱心にご講義いただいた多くの先生の姿が、まだ目に浮かんでおります。

また、６次産業化を推進し成功している先進事例の視察もさせていただきました。売り上げなどのお聞きしづらい質問にも生産者の皆さんが真摯に答えていただき大変参考になりました。

eラーニングにおいても、６次産業化実践論や商品開発、財務会計など通常の講義以外の知識を幅広く学ぶことができました。

さらに毎週出される課題レポートでは、日々の仕事や家業、学業がある中、それらと両立することは大変ではありましたが、提出を通して理解度を高めることができたことは、とても大きいと感じております。

これもひとえに、同期の仲間の励ましや、指導教員である山内先生、水鳥様、先端農業・バイオリサーチセンターの皆様のご支援があればこその賜物であり、ここに改めてお礼を申し上げます。

また、このプログラムをご支援頂いている関係者の皆様にも、このような機会を与えてくださった事に感謝を申し上げます。

私ども修了生は、今回の修了式が本当の意味でのスタートライン、実践講座のスタートであることを認識しております。自ら作成したビジネスプランを今後取組み、成果を残すことで、支援していただいた関係者の皆様に報いることができると確信しております。

しかし実践は容易ではありません。様々な障害を仲間同士の励ましあいや、皆様のご支援をいただく必要も出てくると思います。その際はお力をお貸しいただけると幸いでございます。

最後になりましたが、修了生を代表して皆様のご健康と豊橋技術科学大学の更なる発展をお祈りし、答辞とさせて頂きます。

東海地域の６次産業推進人材育成
第11期生代表　小山田政義

東海地域の６次産業化推進人材育成　第11期生ビジネスプラン発表会

発表の様子
（最優秀賞の安藤美咲さん）

12月17日(土)にビジネスプラン発表会を開催し、12名の受講生がビジネスプランの発表を終えました。審査の結果、最優秀賞は安藤美咲さんの「季節の蜂蜜が味わえるお菓子～ハニレーヌ～の開発」が、優秀賞は大西時央さんの「能登瀬のペリドット　能登瀬ハッカの多機能日焼け止め」、高松和弘さんの「有機野菜を使用したお弁当の開発と販売」がそれぞれ選ばれました。この人材育成プログラムは、国家戦略プロフェッショナル検定、食の６次産業化プロデューサー制度（通称：食プロ）のレベル３に認定されており、修了生の多くから「食プロ」認定者が誕生することを期待しています。

（文責：水鳥絵理）